

昭和二十二年六月十二日（第三種郵便物認可）
令和六年十一月十三日発行（毎月一回十三日発行）

定価 五〇〇円

第998号

龍

跳

第八十卷

12

月号

高知
龍跳書道会

町田碧峰書



坐花醉月

擬山園帖第一
ぎざんえんちよう

王鐸
おうたく

玉書過箕山齋同
魯齊彦甫鳴諧和
歌吹簫調絃天氣不
嚴沍解衣襲磚日
薄莫嫵趣勃然
書數綾幅頗不惡
何也有媿姬絜集

玉書過箕山齋。同

魯齊彦甫鳴諧和

歌吹簫調絃。(氣)天氣不

嚴沍解衣襲磚。日

薄莫嫵趣。(興)勃然

書數綾幅。頗不惡、

何也有媿姬絜集

ぎざんえんちよう
擬山園帖第一

おう
王 鐸

王鐸（二五九一一六五二）は河南孟津の人。字は覺斯、齋号を擬山園などと称した。天啓二年（一六三二）三十一歳で進士に合格。文辞に巧みであったので、庶吉士・翰林院編集を授けられた。

書は晋唐の古法帖、とりわけ王羲之・猷之父子を法とし、原帖を手掛かりとして表現の上に独自の工夫を重ね、情熱や意気そのままに激しい筆を続本（紙面）に走らせた。「この書卷は」運筆が確かであり、氣迫充実した風格を示しているので王鐸学習にはこのうえない法書である。

福原曉雲書

尚書宣示孫權所求詔令所
報所以博示還于卿佐

曉雲

大崎花梢書

道遠漢父來指點停舟更
望在小橋邊

花梢

梅
川
桂
龍
書

張
翰
江
東
去

張
翰
江
東
に
去
る

11月20日締切

梅
川
桂
龍
書

正 風
值 時
秋

正まさに秋風しゅうふうの時にあ値あう

12月20日縮切

福
原
曉
雲
書

瑞雪近
空に浮ぶ

瑞雪近く空に浮ぶ

福
原
曉
雲
臨

歌
吹
簫
調
絃

歌
吹
簫
調
絃

岡林邦心臨

尚何半席之座
咫尺之地
能洵其志哉
且鄉里上

邦心
臨

中平美峰臨

隨命躋攀
彼嶺隈
以
取不
能
來而
思
与

美峰
臨

横田紫秋書

風林蔭系秋聲勁
露宇清響松氣涼

紫秋書

西山極山臨

御里上齒宗廟上爵
朝廷上位皆有等

松心作

舟梢露滴驚殘夢
善作難逢子深

市原處卿

雨後江上綠客悲隨眼新桃
花十里影搖蕩一江春

小笠原廣峰

義之頓首表亂之極
先墓再離荼毒

浜崎洋堂

子孫勿輕失弟有董源畫
在津門三言取來復請

弘田賀峰

書明厥聽咏出鳥
昂涂豈見禽牛步

江西澄翠

玉書過箕山齋同曾
龜產南鳴諧和

岩河里華

白土性孝友出仁紀
行來本蘭生有

初子臨

田村和子

僕射又不惜前失
徑率意而拈麾

朱鳳

藤原朱鳳

得申拜掃伏增威咽
謹以清酌庶羞之

圭子

太平圭子

謹奉書子右僕射宅
襄郡王郭公閣下

美佐

別役美佐

条幅当選作品 廣末幽念 選評

★天位

市原處艸君 〓 手慣れた字形で紙面が明るい。

小笠原廣峰君 〓 真面目な字でしっかり書いています。

浜崎洋堂君 〓 良く筆が動いてまとまりが良い。

弘田賀峰君 〓 よく書き込んで余裕がある。

江西澄翠君 〓 運筆のリズムが軽快で安定した作。

★地位

岩河里華君 〓 おだやかな線で好感がもてる。

田村和子君 〓 非常に伸び伸びとしてよいです。

藤原朱鳳君 〓 懐が大きく息長く書けている。

★人位

大平圭子君 〓 やわらかくてよく伸びています。

別役美佐君 〓 墨量多く豊かな臨。

作品は毎月20日必着
(必ず守って下さい)

▷ 次回審査会 ◁

11月の審査は24日(日曜)午前9時30分に開始
します。審査会場は**高知城ホール**です。

審査会終了後(12時30分～)条幅勉強会を行います。

詳しくは40頁をご覧ください。(参加料500円)

健康 対策

12月20日締切

中学一年課題
廣末幽念書

研究
発表

12月20日締切

山四
地国

小学五年課題

隅田亘心書

北強

風心

12月20日縮切

冬至

休

小学三年課題

大原桂園書

大雪

12月20日締切

ちだ
ん

小学一年・ようち・ほいく課題

大八木 洋 女 書

ゆき

12月20日締切

学校名		深	づ	異	て	し	異
		め	い	な	新	合	な
六年		る	た	る	しい	う	る
級段		こ	り	立	い	と	立
氏名		と	し	場	見	、	場
		が	て	の	方	自	の
		で	、	の	を	分	人
		き	自	い	見	の	ど
		ま	分	と	つ	立	う
		す	の	こ	け	場	し
		。	考	ろ	た	に	で
			え	に	り	つ	話
			を	気	、	い	

学校名								
四年								
級段								
氏名								
	と	を	へ	れ	り		次	
	考	食	行	を	を	の	日	
	え	べ	く	か	と	さ	ご	
	こ	か	と	か	っ	り	ん	
	ん	け		え	拾	は	山	
	で	て	兵	て	っ	で	で	
	い		十	兵	て		く	
	ま	ぼ	は	十				
	し	ん		の				
	た	や	昼	う				
	。	り	飯	ち	そ			

小学三年課題

野中恵花 書

学校名						
三年						
級段						
氏名						
	ろ	た	き	大	た	
	か	昔	食	豆	で	大
	さ	の	事	の	食	豆
	れ	人	に	の	べ	は
	ま	々	取	よ	ら	い
	す	の	り	い	れ	ろ
	。	ち	入	と	て	い
		え	れ	こ	い	ろ
		に	て	ろ	ま	な
		お	き	に	す	す
		ど	き	気	。	が
				づ		

12月20日締切

がっこう						
二 ねん						
だ きゅう なまえ						
	と が あ り ま す。	が う 読 み 方 を す る こ	か い 方 に よ っ て ち	同 じ か ん 字 で も っ	か ん 字 の 読 み 方	

小学一年課題

藤田桂苑

書

がっこう					
	い	三	の		
	ま	ま			中
一	し	い	チ	に	は
ねん	た		ヨ		
きゆう	。	入	ッ		
なまえ		っ	キ	け	
		て	が	い	
					と

12月20日締切

がっこう				
ほねん	あ	あ	の	お
だきゆうなまえ	さ	た	ぼ	ひ
	で	た	っ	さ
	す	か	て	ま
	。	い		が

〈お知らせ〉

★第78回県展（高新記載順）

入選 前田秀華

堀内仁峰

武内美仁

福原曉雲

梅川桂龍

★第65回室戸市美術展覧会

無鑑査 福原曉雲

★第35回 中岡迂山書展

無鑑査 福原曉雲

迂山奨励賞 岡崎緑水

入選 野中恵花

” 深瀬緑堂

★第62回 中土佐町総合文化展

無鑑査 奥堂皓月

” 中平美峰

教育長賞 浪上理奈

人情 因見古 人情 因見古 人情 因見古 人情 因見古	人情 因見古 人情 因見古 人情 因見古 人情 因見古	人情 因見古 人情 因見古 人情 因見古 人情 因見古	人情 因見古 人情 因見古 人情 因見古 人情 因見古	人情 因見古 人情 因見古 人情 因見古 人情 因見古
---	---	---	---	---

(一・二段目) 福原曉雲 選評
澄翠君 鮮明な線質にて品格有り。
賀峰君 引き締つた強い線にて余裕と味わい有り。
邦心君 温和な筆意、墨色一考。
恵歩君 整齊な結体、品格を有す。
花梢君 強靱な線、筆致が魅力的。
竹山君 几帳面な作、落款、位置一考あれ。
(二・三段目) 前田秀華 選評
玉水君 線丸く味わいがあり、二行目ももう少し大胆に。
理奈君 堂々の運筆ですが「見」の五面目が勢いあまつて長すぎ。
康華君 真面目な作品。
幸子君 息長く流れている。
紫秋君 伸びやかで温和な作。
(三・四段目) 野島桂山 選評
美邦君 落ちついてよくまとめている。
倫子君 「情」の文字もう少し大きく。
美草君 線よく伸びてバランスも良い。
隆光君 書き始めの文字もう少し小さく。
知加君 堅実な書きぶりに好感がもてる。
美香君 気負なく温和な作。
(四段目) 大八木洋女 選評
虎之介君 強さの中に温かさが感じられます。
志津君 いつものながら、静かな作品です。
可奈君 字々丁寧に書かれています。



(一・二段目) 梅川桂龍 選評

緑堂君 流麗で趣きあり、佳作!!
里華君 紙に食い込む線で安定した作。

洋堂君 王鐸を臨し、流れ良くまとまりも良い。

花道君 線の深さ、厚味、筆力共に兼ね備えた作。

仁子君 隷書の魅力でもある息長い線で落ち着きある作。

宏子君 落ち着きのある書きぶりであまり味がある。

(二・三段目) 岡崎緑水 選評

碧香君 筆よく立ち線が強い。

玉泉君 大胆な動きで真面目な努力が出来る。

淳君 堂々と書けているが、今一度、原帖を良く見て努力して下さい。

啓助君 安定感のある臨。益々勉強を。

隆志君 師風を良く捉え真面目な書。

(三・四段目) 西山極山 選評

美邦君 特徴を捉え温かな作品。

倫子君 力みなく良くまとめている作品。

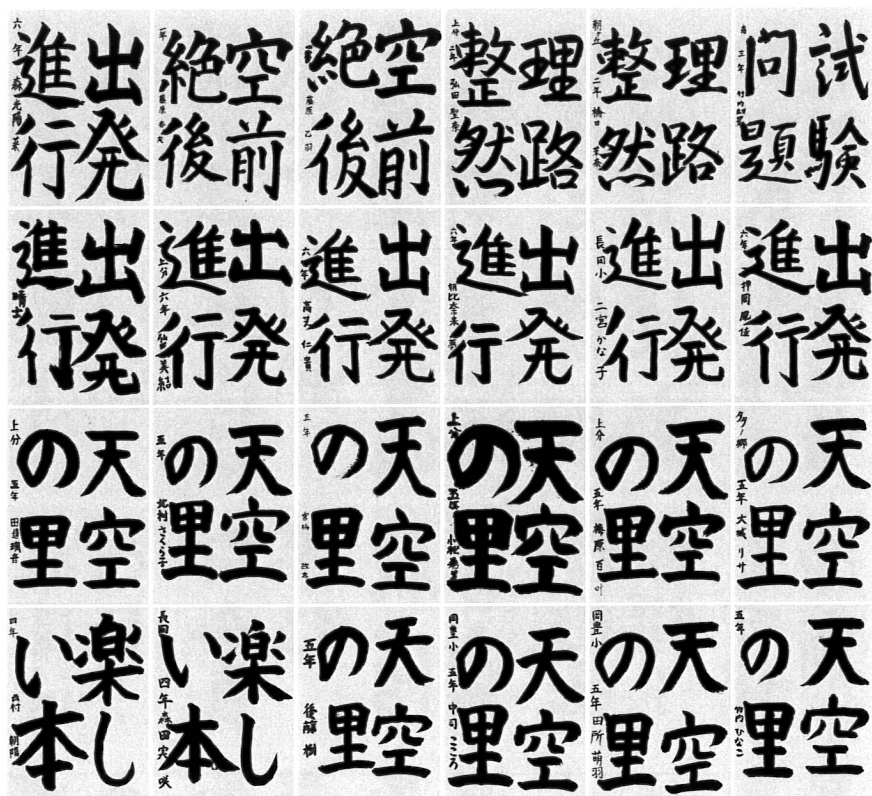
隆光君 力みなく良くまとめている作品。

利恵君 線に太細をつけすっきりとした作品。観て楽しい。

伸枝君 宣示表の特徴がでている。

美香君 王鐸の雰囲気あり、この調子で。

(四段目) 武内美仁 選評
美枝君 運筆自在に流れ、気持ちよく臨している。
千賀君 明るくよく筆が動いている。
美知子君 筆圧の変化、墨量の変化が共に上手い。



(二段目) 中学部 岡林邦心 選評

雄星君Ⅱ良く流れています。

茉奈君Ⅱ丁寧で良くまとめています。

聖奈君Ⅱ大らかで良い。「整」は階書まじりだが今後に期待します。

乙羽君Ⅱ大らかで良い。

杏実君Ⅱ力強い作。

(一・二段目) 小学六年 深瀬緑堂 選評

陽菜君Ⅱ明るく伸びやかな作品。

風佳君Ⅱ力強い線です。頑張つて書いて下さい。

嘉奈子君Ⅱ真面目に書いていますが最後まで丁寧に。

来夢君Ⅱ一生けん命に努力されています。

仁貴君Ⅱ強い線ですがもう少しゆつくり書いて下さい。

美結君Ⅱ落ちついて書いています。右払いゆつくりと。

晴士君Ⅱ堂々と書きました。

(三・四段目) 小学五年 河村容舟 選評

リサ君Ⅱのびやかで良くまとまっています。

百叶君Ⅱ力強く書いています。

希美君Ⅱ堂々と書いています。

改太君Ⅱ大らかに書いています。

さくら子君Ⅱ落ちつきがあり良くまとまっています。

璃音君Ⅱしつかりまとめていて良い。

陽南子君Ⅱゆつくりと書きました。

萌羽君Ⅱのびのびと書いています。

こころ君Ⅱ堂々として立派。

樹 君Ⅱまじめに書いています。

(四段目) 小学四年 佐竹江月 選評

実咲君Ⅱ落ちついてしつかり書いています。

朝陽君Ⅱ力強く堂々と書いています。



(一・二段目) 小学四年

蒼來君Ⅱのびのびと書けています。
健悟君Ⅱすっきりとした作品です。
莉李君Ⅱ明るく良くまとまっています。
美緒音君Ⅱいいねに書けています。もつと太く書くう。

明利君Ⅱまじめに書けています。
湊君Ⅱすなおに書けています。

別役美佐 選評

(二・三段目) 小学三年

太希君Ⅱ力強くかけています。
芳尚君Ⅱバランスよくかけています。
未來君Ⅱ力強くかけています。
心遙君Ⅱお手本をよく見えています。
息吹君Ⅱ形がととのつています。
ゆうな君Ⅱ元氣よくかけています。
郁菜君Ⅱ練習を続けて下さい。

天野喜泉 選評

(三・四段目) 小学二年

涼君Ⅱ形よく丁寧に書けています。
はるか君Ⅱ力強くどうと書けています。
あやと君Ⅱ元氣よく書けています。
かほ君Ⅱおちついて、上手に書けています。
いぶき君Ⅱのびのびと書けています。
昇冨君Ⅱこのちようしでがんばってね。
ときお君Ⅱあかるく書けています。

水田紅子 選評

(四段目) 小学二年・ようち・ほいく

のぞみ君Ⅱかたちよくじようずにかけています。
ゆま君Ⅱげんきよくじようずにかけています。
ゆいと君Ⅱげんきよくちからづよくかけています。
こな君Ⅱすなおによくかけています。

浦ノ内 矢野蒼真
新莊 鍋島 綜

若いアネハヅルの群れが、
キツネにおそわれたのだ。ツ
ルの群れはパニックになる。
気がつく。一羽の仲間の命
が失われていた。その一羽は
まだ幼い鳥だった。

浦ノ内 矢野 蒼真

若いアネハヅルの群れが、
キツネにおそわれたのだ。ツ
ルの群れはパニックになる。
気がつく。一羽の仲間の命
が失われていた。その一羽は
まだ幼い鳥だった。

新莊 特 鍋島 綜

若いアネハヅルの群れが、
キツネにおそわれたのだ。ツ
ルの群れはパニックになる。
気がつく。一羽の仲間の命
が失われていた。その一羽は
まだ幼い鳥だった。

久礼 六九 濱田 奏

若いアネハヅルの群れが、
キツネにおそわれたのだ。ツ
ルの群れはパニックになる。
気がつく。一羽の仲間の命
が失われていた。その一羽は
まだ幼い鳥だった。

長岡 高芝 仁貴

須崎 川西 桜空
多ノ郷 松浦 結菜

若いアネハヅルの群れが、
キツネにおそわれたのだ。ツ
ルの群れはパニックになる。
気がつく。一羽の仲間の命
が失われていた。その一羽は
まだ幼い鳥だった。

須崎 六 四 川西 桜空

若いアネハヅルの群れが、
キツネにおそわれたのだ。ツ
ルの群れはパニックになる。
気がつく。一羽の仲間の命
が失われていた。その一羽は
まだ幼い鳥だった。

多ノ郷 五 九 松浦 結菜

若いアネハヅルの群れが、
キツネにおそわれたのだ。ツ
ルの群れはパニックになる。
気がつく。一羽の仲間の命
が失われていた。その一羽は
まだ幼い鳥だった。

須崎 五 八 松田 菜乃

若いアネハヅルの群れが、
キツネにおそわれたのだ。ツ
ルの群れはパニックになる。
気がつく。一羽の仲間の命
が失われていた。その一羽は
まだ幼い鳥だった。

長岡 五 七 宮脇 改太

越知 片岡 杏璃
岡豊 中司 ころ

若いアネハヅルの群れが、
キツネにおそわれたのだ。ツ
ルの群れはパニックになる。
気がつく。一羽の仲間の命
が失われていた。その一羽は
まだ幼い鳥だった。

越知 五 六 片岡 杏璃

若いアネハヅルの群れが、
キツネにおそわれたのだ。ツ
ルの群れはパニックになる。
気がつく。一羽の仲間の命
が失われていた。その一羽は
まだ幼い鳥だった。

岡豊 五 三 中司 ころ

若いアネハヅルの群れが、
キツネにおそわれたのだ。ツ
ルの群れはパニックになる。
気がつく。一羽の仲間の命
が失われていた。その一羽は
まだ幼い鳥だった。

長岡 四 八 森田 爽咲

若いアネハヅルの群れが、
キツネにおそわれたのだ。ツ
ルの群れはパニックになる。
気がつく。一羽の仲間の命
が失われていた。その一羽は
まだ幼い鳥だった。

須崎 四 七 谷脇 改太

吾桑 高橋 蒼來
浦ノ内 中平 澤里

若いアネハヅルの群れが、
キツネにおそわれたのだ。ツ
ルの群れはパニックになる。
気がつく。一羽の仲間の命
が失われていた。その一羽は
まだ幼い鳥だった。

吾桑 四 五 高橋 蒼來

若いアネハヅルの群れが、
キツネにおそわれたのだ。ツ
ルの群れはパニックになる。
気がつく。一羽の仲間の命
が失われていた。その一羽は
まだ幼い鳥だった。

浦ノ内 四 四 中平 澤里

若いアネハヅルの群れが、
キツネにおそわれたのだ。ツ
ルの群れはパニックになる。
気がつく。一羽の仲間の命
が失われていた。その一羽は
まだ幼い鳥だった。

大谷北 四 二 大木 陽智

若いアネハヅルの群れが、
キツネにおそわれたのだ。ツ
ルの群れはパニックになる。
気がつく。一羽の仲間の命
が失われていた。その一羽は
まだ幼い鳥だった。

須崎 三 六 毛利 香花

久礼 濱田 奏
長岡 高芝 仁貴

須崎 松田 菜乃
長岡 宮脇 改太

長岡 森田 爽咲
須崎 谷脇 改太

大谷北 大木 陽智
須崎 毛利 香花

須崎 田村 紗雪
浦ノ内 藤田 彩葉

それから何十年、町には、前よりもいっばい家がたつています。ちいちゃんが一でかけおくりをした所は、小さな公園になっています。

それから何十年、町には、前よりもいっばい家がたつています。ちいちゃんが一でかけおくりをした所は、小さな公園になっています。

それから何十年、町には、前よりもいっばい家がたつています。ちいちゃんが一でかけおくりをした所は、小さな公園になっています。

それから何十年、町には、前よりもいっばい家がたつています。ちいちゃんが一でかけおくりをした所は、小さな公園になっています。

長岡 竹内かなこ
上ノ加江 吉原あや人

すさき 金堂 涼
上分 吉村はるか

じゅんじょ 思い つく ままに話を しても あいてに よく つたわらない ことが あります。

じゅんじょ 思い つく ままに話を しても あいてに よく つたわらない ことが あります。

じゅんじょ 思い つく ままに話を しても あいてに よく つたわらない ことが あります。

じゅんじょ 思い つく ままに話を しても あいてに よく つたわらない ことが あります。

久礼 くら原 りか
久礼 いわせわたる

久礼 小林 奈ほ
あそう うめばらゆま

じゅんじょ 思い つく ままに話を しても あいてに よく つたわらない ことが あります。

あそう うめばらゆま

あそう うめばらゆま

あそう うめばらゆま

あそう まつさかのぞみ
うらノ内 中平 ゆう大

うらノ内 みや田 いと
うらノ内 てら内かのん

りっちゃん は、 れいぞうこを あ けて 中を のぞ きました。

りっちゃん は、 れいぞうこを あ けて 中を のぞ きました。

りっちゃん は、 れいぞうこを あ けて 中を のぞ きました。

りっちゃん は、 れいぞうこを あ けて 中を のぞ きました。

かみぶん なかしまゆいと
すさき こんどう こな

出品票の名前は楷書ではっきり書いて下さい。

★出品票は黒枠をきちんと切って下さい。
★臨書は出典名を記入のこと。

随 意

審査 梅川 桂龍

★師範

★準師範

深瀬緑堂 岩河里華 浜崎洋堂 大原桂園 弘西賀峰 江西澄峰 中平美峰 野中恵花 萩野羽花 大八木洋女 野島桂山 西山極山 奥堂皓月 岡林邦心 市原處艸 河村容舟 水田紅子

★六段 審査 岡崎 緑水

田村和子 岡田雄山 橋本圭子 大平圭子 岩崎明子 松浦明子 藤原朱鳳 鎌倉春葉 西森令泉 山本恵歩 小野山美喜 氏原美泉 平井桂草 山西春草 田村眉州 別役美佐 窪田碧泉 森光望春 高橋朱鳥 山中紅風 大崎紫陽 桑原智子 田中恵風

★五段

★四段

★二段

★初段

大井 淳 濱田幸子 鈴木輝代 岡林 翠 西森啓助 山崎隆志 横山星舞 高橋翠園 岡本薫山 浜 恵子 西岡仁陽 中澤英子 瀧田順子 西山 極山 杉本美邦 坪内倫子 林 隆光 坂本碧香 下元玉泉 岩村 祥 松本世津 浪上理奈 岩谷紅花 伊吹悠道 岡村妙慧 井上由利子

審査

★一級

★二級

★三級

★四級

○藤田美知子

○山岡斗子

○小笠原香代

和田恵美 金子知加 濱田美恵子 西村百花 武内 美仁

第93回毛筆成績

○印は昇級

中学部

審査 岡林 邦心

三年

★特待生

南 竹内雄星

二年

★特待生

朝ヶ丘 橋田茉莉奈 上分 弘田聖奈

一年

★九段

鷲ヶ池 安井風葵

★八段

池川 藤原乙羽

★三段 仁淀川 藤原杏実

小学部

毛筆六年

審査 深瀬 緑堂

★特待生

多ノ郷 森光陽菜 新莊 鍋島 綜

★九段

長岡 押岡風佳

★八段

長岡 二宮嘉奈子 上分 朝比奈来夢

長岡 高芝仁貴 多ノ郷 森岡快晴

★六段

上分 弘田美結

★初段

附属 三本晴士

毛筆五年

審査 河村 容舟

★九段

多ノ郷 大城リサ

★八段

上分 梅原百叶 須崎 松田菜乃

★七段

上分 小松希美 長岡 宮脇改太

須崎 谷口桜心

★六段

長岡北村さくら子 岡豊 島村倅空

多ノ郷 橋田天冴

★五段

上分 田邊璃音 長岡 竹内陽南子

上分 柳本稀衣 須崎 田村拓海

氏 名

臨書は出典名

(出品票)
のり代
6年 12月 幅条

★四段 岡豊 田所萌羽 吾桑 梅原蒼葉 ★三段 岡豊 中司こころ ★二段 別府 後藤 樹 毛筆四年 審査 佐竹 江月 ★八段 長岡 森田美咲 ★七段 小高坂 川西康介 ★六段 夜須 西村朝陽 ★五段 吾桑 高橋蒼來 佐古 田村健悟 須崎 金堂莉李 須崎 松坂美緒音 須崎 津野聖佳 馬路 小松太緒	★二段 長岡 西内明利 長岡 小笠原湊 吾桑 宮崎穂花 夜須 清藤 蘭 ★初段 長岡 溝渕蒼功 ★三級 上分 中山結愛 毛筆三年 審査 別役 美佐 ★六段 須南 西村太希 須崎 毛利香花 ★五段 浦ノ内 正木芳尚 須崎 田村紗雪 ★四段 上分 梅原未來 ★三段 岡豊 島村心遥 長岡 押岡息吹	多ノ郷 太田朋希 長岡 竹内伽菜心 長岡 猪野光騎 ★二段 多ノ郷 森光梨衣奈 長岡 宮脇治太 ★初段 吾桑 長山優奈 越知 藤崎華乃 ★四級 長岡 ○澤村かな ★九級 夜須 ○白石一華 夜須 ○白石一莉 もうひつ二年 審査 天野 喜泉 ★四段 須崎 金堂 涼 ★三段 上分 吉村はるか 多ノ郷 森光連太郎	★二段 しんじょう 中じまあやと 多ノ郷 橋田かほ 吾桑 高橋依吹 上分 はし田一か ★初段 岡豊 島村昇牙 岡倉 根口心花 岡豊 中司みのり ★二級 馬路 ○小松時生 須崎 ○谷口きずな もうひつ一年 審査 水田 紅子 ★二段 吾桑 松坂望未 ★三級 吾桑 ○梅原由菜 ★八級 岡豊 ○おぎかお	もうひつ ようち・ほいく ★初段 上分 なかじまゆいと ★二級 須崎 ○こんどうこな ★三級 ふたば○後藤和葉	第692回 硬筆成績 ○印は昇級 こうひつ 硬筆六年 審査 江西 澄翠 ★特待生 浦ノ内 矢野蒼真 新莊 鍋島 綜 多ノ郷 森光陽衣 初月 川淵結衣 ★九段 久礼 濱田 奏 長岡 押岡風佳 ★八段 長岡 高芝仁貴 上分 朝比奈来夢 馬路 牛窓環菜 多ノ郷 森岡快晴 ★七段 藤沢 駒崎愛恵 長岡 二宮嘉奈子	★六段 上分 弘田美結 ★五段 南 西山あい ★四段 須崎 川西桜空 城東 持田和花 大谷北 山崎流依 大谷北 大木柚杏 須崎 川西蒼空 馬路 浅野由梨 ★初段 附属 三本晴士 こうひつ 硬筆五年 審査 森本 寿山 ★九段 多ノ郷 松浦結菜 多ノ郷 大城リサ
--	--	--	--	--	---	---

筆・硯・墨・古法帖・墨液・画仙紙
書道用具萬般乞来店

(株) 山本 齋

高知市南宝永町14-18
TEL (代) (882) 1394番
夜間・TEL (882) 1392番

★二段 上 吉原綾人 上 加 片山ひまり 久 松山愛凛 久 日林ゆあ 吾 長山優奈 ★初段 久 黒原小春 夜 白石一華 夜 白石一莉 ★五級 長岡 ○澤村かな ★六級 浦ノ内○森田海音 こうひつ二年 審査 小川 理香 ★四段 須崎 金堂 涼 ★三段 上 吉村はるか 多ノこう はし田かほ 吾 高橋依吹	多ノこう 森光連太郎 ★二段 新 中じまあやと 上 分 はし田一か 久 黒原りか か 山岡みづき 浦ノ内 徳永隼斗 朝 根口心花 ★初段 久 下谷ことは 池 伊藤日向 池 上村心晴 久 北村心暖 岡 政岡有美 岡 中司みのり 長 安井 颯 池 片岡紗雪 ★二級 吾 鈴木 花 上 木村ひらと 上 政岡そうし 奈 植野 葵 岡 島村昇河 ★二級 長岡金堂こうすけ	★三級 須崎 谷口きずな ★四級 久 岩瀬 涉 ★五級 久 小林なほ 上 大内ゆずの 久 近藤みのり ★七級 久 加茂みやび 馬 木下魁人 吾 宮崎陽香 ★八級 吾 堅田彩乃 長 村上心優 ★十級 城 丸山颯士 ★新規 大 倉持百花 九級編入 大谷北	こうひつ一年 審査 石川 美水 ★三段 吾 梅原由菜 吾 松坂望未 ★二段 浦ノ内 吉岡まひろ 多ノ郷 坂本美咲 ★初段 浦ノ内 中平ゆう大 浦ノ内 宮田いと 附 江頭 航 ★四級 久 森岡べに ★六級 佐 井上めい ★七級 高岡○隅田しゅう 久 奈路かなえ 浦ノ内 ○てら内かのん	★十級 岡 多肥 岡 多肥 ○隅田ゆうじん こうひつ ようち・ほいく 審査 石川 美水 ★初段 上 分 なかじまゆいと ★一級 須崎 こんどうこな ★二級 ふたば 後藤和葉 ★新規 十級編入 おひさま森光莉菜
---	---	---	---	--

中国文房四宝
国産書道用品
久保田号銘筆

有限会社 湖筆堂

〒780-0818 高知市宝永町3-3
TEL (088) 882-1454
FAX (088) 884-7413

のり代	
6年 12月 毛筆	
校名	
学年	
氏名	
段級	



橋本 祝子 氏



〈お詫び〉

先月号の新準師範紹介欄の橋本祝子さんの作品が間違っていました。
お詫びして改めて掲載させていただきます。

のり代	
6年 12月 硬筆	
校名	
氏名	
段級	

★条幅勉強会（創作会）の課題（参加者は筆をご持参下さい）

（十一月二十四日 十二時三十分より）

（高適「夜別韋司士」）

黄河曲裏沙爲岸 白馬津邊柳向城

こうがきよくり すな な はくばしんべん
黄河曲裏 沙を岸と為し／白馬津辺 柳は城に向かう

大意 黄河が曲がるあたりでは一面の砂が岸边となり、
白馬津のあたりの芽吹いた柳の並木がこの町へと
続いている。（七言律詩／唐詩選）

連絡・問い合わせ・送り先等

・新規入会申込と会費の送金先

・「龍跳誌」冊数変更の通知先

〒781-1501 吾川郡仁淀川町大崎 一三三一

隅田 亘 心

龍跳誌部

01690-3-31925

電話 (〇八八九) 三五〇九七一 番

・月例作品の送り先

〒783-0081 南国市片山四九〇

西山 極 山

電話 (〇八八) 八六五-八八五七 番

・「龍跳誌」の内容について

〒781-7412 安芸郡東洋町河内三〇四

福 原 暁 雲

電話 (〇八八七) 二九-二六五〇 番

・編集についての連絡先

〒785-0010 須崎市鍛冶町六-八

江 西 澄 翠

電話 (〇八八九) 四二-三〇六七 番

・送本についての連絡先

(冊数の相違等については当方へご連絡下さい。)

〒785-0055 須崎市大谷二〇四

野 中 恵 花

電話 (〇八八九) 四七-〇七二一 番

あとがき

登下校の時間になると、随分子どもたちの元気な声が聞こえていたのに、近頃は殆ど聞かれなくなった。何となく寂しい思い…。

聞けば、今年の一年生は須崎小学校で十二人とか…、来年もそう変わらないらしい。

本会の会誌のページ数が、このところグッと少なくなり、なんだかやるせない思いです。

しかし、今夏の猛暑にも負けずに作品を書き上げて、出品されている会員さんも多数いて、その“ガンバリ”に感動しきり…です。

大分、涼しくなりました。”書”に向き合うに最適な季節です。

右頁の勉強会に一人でも多く参加下さるよう切望してやみません。

月例競書課題

部 別	締切日	
	十二月二十日	一月二十日
一般条幅	任 意	任 意
半紙規定	正值秋風時	天清一鴈遠
半紙随意	任 意	任 意
中学三年	健康対策	人類の幸福
" 二年	研究発表	冬季休暇
" 一年	四国山地	文化交流
小学六年	強い北風	初日の出
" 五年	冬休み	うめの花
" 四年	大 雪	げんき
" 三年	だ んろ	こたつ
" 二年	ゆ き	こ ま
保 育		

会 費 の 送 金 に つ い て

会 費 : 半年分 3,000円 / 1 年分 6,000円

1 ヶ月の龍跳誌郵送料 (R6.10~)
(幸便搬送の方は送料不要)

①	1 冊	180円
②	2 冊~7 冊	210円
③	8 冊~20冊	430円

21 冊以上は次の計算による。

21冊 ㉠+ ㉠= 610円×月数
22冊~27冊 ㉠+ ㉡= 640円×月数
28冊~40冊 ㉠× 2 = 860円×月数
50冊の場合 ㉠× 3 = 1,290円×月数

㉠会費と龍跳誌送料は原則として半年分または1 年分前納のこと。

㉡送金は次の何れかへ
 ・〒781-1501 吾川郡仁淀川町大崎133-1 隅田亘心
 ・振替口座番号 01690-3-31925 龍跳書道会
 (お問い合せ) ☎0889-35-0971

○月号 (○冊) より○月号まで○ヶ月分
誌代 ○円 / 送料 ○円

と記入のこと。

編集室

福原 暁雲

野島 桂山

江西 澄翠

中平 美峰

発行人

福原 暁雲 (本部)

安芸郡東洋町河内三〇四

電話 (〇八七) 二九一二六五〇

発行所

龍跳書道会

電話 (〇八七) 二九一二六五〇

印刷所

(有)笹岡印刷所

須崎市東古市町二一六

電話 (〇八九) 四二一〇二四四

月例作品送り先

〒783-0081 南国市片山四九〇

西山極山宛

電話 (〇八八) 86518857